

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉
研究センター

②施設・事業所情報

名称：スターチャイルド《宮前平ナーサリー》	種別：認可保育所
代表者氏名：柴田ナヲ子	定員（利用人数）：60名
所在地：川崎市宮前区馬絹1-6-8宮前平DRビル2階	
TEL：044-870-0888	ホームページ： https://www.starchild.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2020年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ヒューマンスターチャイルド株式会社	
職員数	常勤職員：15名 非常勤職員：6名
専門職員	施設長：1名 保育士：15名
	栄養士：1名 調理員：3名
	事務員：1名
施設・設備の概要	(居室数) 6 (設備等) 厨房、事務室・保健室、多目的トイレ、乳児・幼児トイレ、調乳室、休憩室など

③理念・基本方針

運営理念：かかわるすべての人が子育ての楽しさ、喜び、感動を共有できる保育施設であること
保育理念：子どもの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します。
基本方針：1よく考え、心身ともにたくましい子（自立と挑戦を支援します）
2個性の豊かな子（個性を尊重し長所を伸ばします）
3やさしさと思いやりのある子（社会性＝人と関わる力を身につけます）
職場理念：嘘や不正、差別、偏見を許さず、全員がイキイキと前向きに働ける職場を創ります。

④施設・事業所の特徴的な取組

田園都市線「宮前平駅」から徒歩7分の場所にあり、沿線には10園程の姉妹園があります。2階建て建物1階は店舗。2階にあるワンフロアの施設をパネルや棚等の家具で仕切って保育室を設定、年齢別保育を基本としていますが、朝、夕の異年齢合同保育は大きめの家庭のリビングに集うきょうだいのような関わりを通して豊かな人間関係を育てています。
幼児クラスは専門の講師による月2回 ネイティブ英語教室 及び月2回 体操教室があります。また
スターチャイルドオリジナルワーク教材を使用し興味関心に応じて文字や数字等に触れています。
5歳児の10月から午睡はせず、就学準備45分教室(習字・造形・迷路・発見・文

字・数字・社会)

を設定し、就学までの支援をしています。

給食室はオープンキッチンになっていて、産地の明確な食材を使用、素材から手作りして提供しています。また、栄養士が指導するクッキング活動等を通して食育にも力を入れています。

その他にITC化によるペーパーレスの促進、コドモンアプリを導入し日々ドキュメンテーションを保護者のみなさまに配信しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月2日（契約日） ～ 2023年3月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

◆保育士の援助のもと、子どもたちは様々な体験から自己肯定感を育み、自分らしさを発揮しています

保育士は、日々の保育の中で一人ひとりの個人差や発達の状態を把握し、カリキュラム会議で情報を共有して共通認識を持って保育にあたっています。基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもの意思を尊重して個別に対応しています。1歳児のトイレ誘導は遊びを妨げない工夫が見られ、2歳児が散歩から戻ると、オムツかパンツにするかを本人に聞いている姿が観察されました。着替えの際は、子どもができた喜び、達成感が感じられるようさり気なく援助しています。子どもたちはこのような日々の積み重ねで生活習慣を身につけることで自己肯定感を得ています。乳児クラスで職員は、スキンシップを心がけ、常に声掛けして一緒に遊ぶなどして愛着関係を築くよう心掛けて対応しています。幼児クラスは、子どもの意見を聞いて、その日の予定の順番を決め、また、協同して制作する際には子ども同士で意見を出し合っています。保育士は、なぜそう思い、どうしたいのかを話すように促し、相手の意見を聞き、納得できるよう話し合っています。子どもたちは、丁寧な保育の中、自己肯定感を持ち、自分らしさを発揮していきいきと過ごしています。

◆子どもの心身を守る、人権と安全に配慮した取組が行われています

施設長は、子どもが安心する居場所としての保育園でありたいと考えています。「言葉を大事にしましょう、投げつける言葉でなく丁寧に伝わる言葉が子どもを大事にすることにつながりましょう」と伝え、職員は、子どもの非言語を汲み取り、自分の思いを伝えられるよう援助しています。園内研修では、「人権擁護」を取り上げ、「不適切な保育に関わる自己点検シート」を用いて子どもの人権を学んでいます。また、子どもの安全を目指し、事故防止の取組に力をいれています。施設長は、毎日のスタート時に「けがや事故が無いよう、職員は無理をせず、力を合わせる事を心掛けましょう」と声掛けしています。事故防止委員会を設け、事故の検証や分析を行い、月毎に表にして周知しています。「園内リスクマップ」を目につく玄関脇に掲示し、ヒヤリとした箇所に付箋を貼って注意を促しています。また、他施設で起きた事例を収集して情報共有し、戸外活動時は人数確認でなく「出席確認チェック表」を用いて個別に名前を呼んで確認しています。

◆職員一人ひとりの育成に向けた取組を行い保育の質の向上に努めています

法人は、人材育成計画で求められるスキル・人材像を明示し、階層別研修、実技研修、知識研修、認定研修等を実施しています。職員は、個別目標設定シートで、チャレンジ性のある目標を設定しています。施設長は、職員個人の希望、研修の受講実績や、現在の仕事に活かせることなどを基に、個人別に受講する研修の方向性を明確にして、本人と研修に関して話し合っています。また、毎月の園内研修では、理念、連絡帳の書き方、パワーハラスメント、嘔吐処理、人権擁護、不適切な保育の防止などのテーマで行い、園独自の場面ごとのマニュアルと共に日々の保育の質の向上に努めています。

【今後期待される点】

◆**地域交流や地域子育て支援の実施が期待されます**

園は、地域交流の基本的な考え方について、中長期計画や事業計画、全体的な計画で明確にしていますが、コロナ禍の状況で、地域交流の取組が延期になっていて、子どもと地域の交流の機会は、消防署見学とスーパーでの食材買い物体験、公園への散歩などに留まっています。今後は、交流の機会を定期的に設けるなど、交流を広げていくことが期待されます。また、地域子育て支援に関する取組は、電話による育児相談を建物の壁に掲示して案内していますが、実績はありません。コロナ対策をしながら子育て支援などの保育所が有する育児に関するノウハウや専門的な情報を地域に還元していくことが望まれます。

⑦**第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント**

開園から3年目となる今年度、初回の第三者評価を受審しました。

20名程の職員の中で過去に受審した経験のある人は保育士が1名のみで、「第三者評価受審って何」というところからミーティングを重ねる中で、保育の質の向上を目指すという目的を共有し、職員全員で自己

評価に取り組みました。

現地訪問による審査では、職員も緊張気味でしたが、事前に「普段の姿をありのままに見ていただく」ことこそが大切で、意味があるのではないかと伝えてあり、当日はいつものような保育であったと感じました。

私どもの施設はオープンスペースでの保育となっており、保護者の方や見学者等、来園される方に保育の様子を、たくさんの目で見ていただいております。このような第三者の目に対して、掲げている理念に沿った保育がなされているか、子どもの最善の利益のための保育になっているか等、常に基本に立ち返り、信頼される施設でありたいと思っています。

この度の第三者評価結果を受け、いくつかの課題がありました。とりわけ、開園と同時にコロナ禍となり、地域交流がなかなかできませんでしたが、今後この課題にもしっかり取り組んでいきたいと考えています。

「第三者評価は受けたら終わりではなく、そこから始まる」という事を改めて意識し、良い評価であった点は自信に繋げ、更なる質向上をめざしたいと思います。

⑧**第三者評価結果**

別紙2のとおり